YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏 名	**NO**	**学部・学科**	**国際商学部・国際商学科**
学 年	**4 年**	**派遣国**	**スウェーデン**
派遣大学	**オレブロ大学**		
期 間	**2025 年 9 月 1 日～ 2026 年 6 月 7 日**		

【生活編】

1．滞在先

滞在形態	学内の学生寮 ／ 学外の学生寮 ／ アパート ／ その他（ ）					
部屋	個室 ／ 2 人部屋 ／ 3 人部屋 ／ その他（ ）					
設備	*共同＝◎ 部屋にあるもの＝○					
	トイレ	○	シャワー	○	洗面所	○
	キッチン	○	冷暖房	○	冷蔵庫	○
滞在費	約（ 1 年で 62,000 ）SEK					
移動	（ 徒歩 ）で、約（ 5 ）分 *大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先 2 の内容を追加してください。

2．日常生活

（1）1 ヶ月の生活費

項 目	金 額	内 訳
食費	2,300 SEK	お米、お肉、魚、卵、ミルク、パスタ etc.
学用品購入費	500 SEK	教科書（一冊あたり）
交通費	1,000 SEK	バス、スクーター
交際費	2,000 SEK	旅行、外食
その他	3,000 SEK	服、インテリア
合計	**8,800 SEK**	*概算で記録してください。

（2）治安状況・危険地域など

キャンパス内は特に危険なことはありません。友人曰く、オレブロの中心街から北に向かった遠くは少し治安が悪いようですが、特に行くことはありません。中心街も人が割といて夜でも危険を感じたことはありません。どの場所にも当てはまりますが、休日の夜になると酔った人が多いです。また深夜の一人行動は治安に限らずおすすめしません。また、大学の裏に森がありますが非常に暗いので、深夜に行くと危険かもしれません。

３．海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海学 ／ その他（　　）		
加入期間	（　12　）ヶ月間	保険料	（ 125,230 ）円

現地の国／大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称	Kammarkollegiet		
加入期間	（　11　）ヶ月間	保険料	（ 0 ）円

４．滞在都市についての情報

滞在都市／町（**Örebro**）

オレブロ市は、スウェーデンの真ん中に位置している街です。人口は、129,000 人で鎌倉市より少し少ないです。大学はオレブロ市の端に位置しており、美しい自然に囲まれています。キャンパスは非常に大きく、さまざまな建物があります。バスに乗れば、10 分ほどで、中心街に辿り着けます。中心街には、美しい城があり、美しい川に囲まれています。夏になると、その城を目的にたくさんの観光客も訪れます。自然と西洋の建築が両方感じられる美しい街です。ここにいると時間がゆっくり流れるような気がします。また、大学の施設は地域の方も利用しており、大学が地域コミュニティの中心になっている気がします。

【学業編】

1．大学情報

大学	Örebro University	所在地	Fakultetsgatan 1, 701 82
最寄空港	Arlanda airport	空港からの距離	約 200 km
空港⇔大学	（ バスで universitetsplatsen から resecentrum に行き、高速バスで arlanda airport ） *移動手段		
学生数	16,000 人	留学生数	350 人/年間
学部	School of business, nature and science School of humanity and social science School of medicine and health *留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。		
学部/専攻	School of business, nature and science *留学中に所属した学部/専攻を記載してください。		

２．週間スケジュール

オレブロ大学の講義スケジュールは日本の大学とは大きく異なり、非常に独特なシステムを採用しています。

まず大きな特徴として、半年間の 1 セメスターを 4 分割した「クォーター制」という仕組みがあります。1 クォーターは約 1 ヶ月という短期間で、基本的に 7.5 単位の講義であればこの 1 ヶ月間で完結します。中には 2 クォーター（約 2 ヶ月）かけて 15 単位を修得する科目もありますが、留学生は年間で計 60 単位（8 講義分）の登録が必要なため、基本的には「1 ヶ月に 1 科目を集中して終わらせる」というサイクルを繰り返すことになります。

さらに日本と決定的に違うのが、日々の時間割です。日本では「毎週何曜日の何限」というように学期を通してスケジュールが固定されていますが、こちらでは「〇月〇日の何時から」という形で、講義ごとに日時がピンポイントで指定されています。

たとえば、ある科目の講義が「9 月 12 日の 9 時から 11 時」にあったとしても、次の回は「9 月 16 日の 15 時から 17 時」になるといった具合です。そのため、学生は「Blackboard」と呼ばれる学内ポータルサイトを常に確認し、不規則なスケジュールをその都度把握しなければなりません。

このように、一つの科目を短期間で集中的に学び、かつ日々異なる時間帯に講義が行われるスタイルは、日本の大学に通い慣れている身からすると非常に新鮮で、自己管理が重要視されるシステムだと感じます。

３．履修内容

科目	Global Communication		
履修期間	2025 年 9 月 4 日 ～ 2025 年 10 月 1 日	単位数	7.5
授業内容／形態	グローバル化の理論、国際的なマスメディアの発展、およびデジタル・ディバイド（情報格差）について学習した 。政治、経済、技術、文化の 4 つの視点から世界のメディア情勢を分析し、ネットワーク理論（Castells）やグローバル・ジャーナリズムの概念、ソーシャルメディアのリテラシーについても深く考察した 。 講義形式の授業に加え、学生同士の相互レビューを含む「ファイナル・セミナー」への参加、および自身の出身国・地域を起点とした 3,000～3,500 語の個人レポート作成。		
成績	D		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Global Marketing		
履修期間	2025 年 10 月 2 日 ～ 2025 年 11 月 6 日	単位数	7.5

授業内容／形態	グローバル市場におけるマーケティング管理と戦略について学習した。国際化理論、新規市場参入戦略に加え、製品・価格・流通・プロモーションの 4P 戦略を世界の多様な社会・文化的環境に適応させる手法を分析した。また、B2B（企業間取引）におけるグローバルな問題解決や、多国籍企業のマーケティング活動における倫理的側面についても考察した。 4 回の講義に加え、計 3 回の義務的セミナー（ケース分析、学術論文の要約・討論、および実社会の B2B 問題を扱うグループワークの発表）で構成される。最終評価は、これらのセミナー課題と筆記試験（Closed book examination）によって行われる。	
成績	F	
YCU 振替予定	科目	
	単位数	
	担当教員	

科目	International Logistics		
履修期間	2025 年 11 月 7 日 ～ 2025 年 12 月 12 日	単位数	7.5
授業内容／形態	国際物流の基礎知識として、サプライチェーン戦略、在庫管理、倉庫運営、輸送、およびネットワーク設計について学習した。特に、グローバル化が物流に与える影響やリスク管理、情報管理のほか、物流における環境問題や持続可能性（サステナビリティ）についても深く考察した。 教員によるプレゼンテーションおよび事例分析。グループワークとして、国際物流の現代的・将来的課題（脱炭素化、自律走行車両、サイバーセキュリティ等）に関する「メジャー・ペーパー（15-20 枚の論文）」を作成し、発表および他グループへの反論（Opposition）を行った 。最終評価は、これらの課題と筆記試験（WiseFlow FlowLock によるデジタル試験）によって行われる。		
成績	B		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Gender, Diversity and Organization		
履修期間	2025 年 12 月 17 日 ～ 2026 年 1 月 14 日	単位数	7.5

授業内容／形態	組織や労働生活におけるジェンダー、階級、民族性などの多様性要因と、支配・特権・差別のメカニズムについて理論的・実践的に学習した。主なテーマとして「組織におけるジェンダーと多様性」「権力・不平等・暴力」「リーダーシップと多様性の実践」の 3 点を軸に、批判的評価や改善勧告のための分析手法を習得した。 全 3 回のテーマセッション（講義と学生主体のセミナー）で構成される。セミナーでは文献に基づくプレゼンテーションや討論が義務付けられており、積極的な参加が求められた 。最終評価は、セミナーへの出席・貢献（DT）および、自宅受験型の筆記試験（Take home exam / Wiseflow）により行われる。	
成績	F	
YCU 振替予定	科目	
	単位数	
	担当教員	

科目	Management of Business Logistics		
履修期間	2026 年 1 月中旬 ～ 2026 年 2 月下旬	単位数	7.5
授業内容／形態	サプライチェーンにおける物流の基本原理、輸送モードの選択、在庫および受注管理、財務分析、持続可能性について学習した。特に倉庫計画、拠点の選定、マーケティングチャネルの選択、配送ルートの最適化など、企業の競争優位性に直結する実務的な意思決定手法について深く考察した。 講義および事例討論に加え、グループワークが中心となる。グループワークでは特定のトピックについて最新の学術論文 4 本を調査し、理論との比較分析をまとめたレポート（最大 10 枚）の作成とプレゼンテーションが義務付けられている。最終評価は、グループ課題と学内での筆記試験（Wiseflow を使用したデジタル試験）により行われる。		
成績	A		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Culture and Leadership in International Business		
履修期間	2026 年 3 月上旬 ～ 2026 年 4 月下旬	単位数	7.5

授業内容／形態	国際ビジネスにおける文化、倫理、およびマネジメント行動に焦点を当て、グローバル環境で求められる管理スキルについて学習した。具体的なテーマとして、異文化間コミュニケーション、組織環境、グローバルチームの管理、責任ある経営、交渉術などを扱い、Richard M. Steers らの理論を基に分析した。 講義に加え、複数のグループ課題（ケーススタディ、近隣 3 カ国の文化的比較プレゼンテーション、および特定の国に関する調査報告）が課される。最終評価は、これらのグループ課題の合格（G）および、個人での筆記試験（A-F 評価）により行われる。	
成績	D	
YCU 振替予定	科目	
	単位数	
	担当教員	

科目	AI, Film and Thinking		
履修期間	2026 年 3 月 23 日 ～ 2026 年 6 月 7 日	単位数	7.5
授業内容／形態	AI（人工知能）の本質について、哲学、SF 映画のナラティブ、および視覚文化の観点から批判的に学習した。AI の歴史、意識や心の理論、AI が「人間とは何か」という概念に与える影響、画像生成 AI の技術的構造とその限界について考察した。特に、AI が既存の人間知識をどのように反映し、あるいは人間の思考を前進させる可能性を持つかについて深く分析した。 完全オンライン形式での実施。講義に加え、特定の映画（『Ex Machina』等）の鑑賞とそれに基づく計 4 回のワークショップ、および文献講読に基づくセミナーで構成される。最終評価は、コース全体で学んだ理論と映像分析を統合した個人レポート（3,000～3,500 語）により行われる。		
成績	F		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Swedish Culture and Language I		
履修期間	2026 年 3 月下旬 ～ 2026 年 6 月上旬	単位数	7.5

授業内容／形態	スウェーデン語の基礎的な構造、およびスウェーデンの歴史、文化、慣習、伝統について学習した。日常生活における基本的な自己紹介、質問、対話といった口頭表現力を重点的に養い 、簡単な文章の読み書きについても習得した。また、スウェーデン独自の音素や韻律（プロソディ）を含む発音についても基礎から学んだ。 スウェーデン語による語学訓練（英語による補助あり）と、英語で行われる文化・歴史のオリエンテーションで構成される。理解・発話・読解・記述の 4 技能を訓練しつつ、特に口頭での表現能力に重きを置いた形態をとる。最終評価は、口頭試験（Oral examination）によって行われる。	
成績	F	
YCU 振替予定	科目	
	単位数	
	担当教員	

＜総括＞

（1）全体的な感想　　*留学生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800 字以上)

今回の留学、最初は未知の環境に飛び込んで、できる限り視野を広げようと思ってスタートしました。日本とは全然違う北欧の文化に触れたり、現地のスタートアップの熱量を肌で感じたり、とにかく外の世界のいろんなものを吸収したかったです。しかし、いざ現地での生活が始まってみると、外を見れば見るほど、今の自分は何もできていないという焦りがありました。そして、自分の内面や専門分野という足元を深く見つめ直すことになりました。視野を広げに行ったはずが、結果的には自分の専門をめちゃくちゃ深める留学になったのが、自分でも面白い発見です。

その集大成になったのが、ニューヨークへ行って、ずっと本で読んでいた会計学の世界的な名誉教授に直接会いに行ったことです。自分でアポを取って、これまで大学のゼミで必死に学んできたこと、自分の考えを、本場のトップにぶつけに行きました。あの対談の時間は、今でも信じられないくらい刺激的でした。また、これまでやってきたことは間違ってなかったと、大きな自信になりました。

ただ、実際には数え切れないくらいの失敗もしました。言葉が通じなかったり、自分の未熟さにへコんだり、泥臭くもがいてばかりの毎日でした。でも、その経験をただの挫折で終わらせず、「いま自分は失敗したんだな。じゃあ次はどうしよう」って、冷静に財産として受け止められるようになりました。この思考の体力がついたことこそが、僕がこの留学で得た一番の成長だと思います。

そして何より、そんな僕の挑戦をそばで支えてくれた仲間たちの存在が本当に大きかったです。一緒に夜遅くまで勉強したり、現地のカフェでおしゃべりしながら将来の夢を語り合ったり。バックグラウンドが全然違う彼らと関わることで、世界の広さを知ると同時に、自分は将来、どんな人間として生きていきたいのかという自分の軸がどんどんクリアになっていくのを感じました。

世界を知るという経験は、自分という人間を深く知る旅でもありました。最高の仲間に恵まれ、自分の無力さを知り、それでも自分の武器を信じて世界に挑み続けたこの 1 年間は、これからの人生の絶対にブレない土台になったと確信しています。

（2）今後の展望　　*この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400 字以上)

これからの未来に向けて、学問的には会計の道をさらに深く、突き詰めていこうと考えています。今回の留学という海外でのリアルな経験を経て、会計が持つ複雑さや一筋縄ではいかない奥深さを、身をもって知ることができました。しかし、それこそが会計を学ぶ本当の意義であり、同時に私が心の底から惹かれる面白みそのものなのだと確信しています。
また、留学生活の中で数え切れないほどの失敗を重ねたことは、結果的に自分という人間の輪郭を少しずつ知るための貴重なプロセスとなりました。これまでは自分の足りない部分や、できない部分ばかりに目が向いてヘコむこともありましたが、これからは、失敗を財産に変えてきたタフさを糧に、自分のできない部分に執着するのではなく、自分が強みとして持っているできる部分にしっかりと目を向け、そこを徹底的に追求していきたいです。
そのための短期的な目標として、まずは大学院への進学を捉えています。大学院という次のステージへ進み、これまで自分が必死に追い求め、追求し続けてきた会計という学問の成果を、研究や論文という形でしっかりと目に見える一つの形にしてみたいです。

（3）後輩へのアドバイス　*留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400 字以上)

これから留学に行く皆さんに、一番伝えたいのは留学は楽しいことばかりじゃない。でも、それで全然いいということです。現地ではたくさん辛いこともあるし、自分の非力さにヘコんだり、周りと比べて劣等感に押しつぶされそうになったりする日もきっとあります。しかし、そうやって泥臭くもがく時間も含めて、すべてが価値のある留学経験です。
せっかく高いお金と貴重な時間を費やして行くのだから、何か大きな成果を残さなくてはいけないと焦る気持ちもよく分かります。でも、何も頑張り続けるだけが留学ではありません。どうしてもやる気が出なくて、一日中ベッドの上でネトフリを見てゆったり過ごす日があったって、それは自分を労るための大事な 1 日です。そもそも、日本を飛び出して留学に行きたいと思い、それを実行に移せている時点で、目標はすでに半分以上達成されています。
留学中の行動に、正解も不正解も、成功も失敗もありません。誰かが決めた理想の留学像に自分を当てはめる必要は一切ないです。一番大切なのは、他の誰でもないあなた自身が、現地で自分の好きなことを徹底的に楽しむこと。周りの目を気にせず、自分の心に素直に、時には休みながら、あなただけの特別な時間を過ごしてきてください。心から応援しています。